

**公益社団法人 日本技術士会**  
**千葉県支部 平成 27 年度 年次大会**  
**活 動 報 告 書**

**平成 26 年度活動報告**

(平成 26 年 4 月 1 日～平成 27 年 3 月 31 日)

**平成 27 年度活動計画**

(平成 27 年 4 月 1 日～平成 28 年 3 月 31 日)

**開催日:平成 27 年 7 月 20 日(月、海の日)**

**会 場:ホテルプラザ菜の花 3階「菜の花」**

**千葉市中央区長洲 1-8-1**

**公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部**

**千葉県支部**  
**平成 27 年度 年次大会**  
**活動報告書**

目次

I. 支部長挨拶	1
II. 平成 26 年度活動報告	2
1. 年間活動報告	
2. 委員会・チーム報告	
3. 収支決算書	
4. 監査報告書	
III. 平成 27 年度活動計画	12
1. 活動方針	
2. 委員会・チーム活動計画	
3. 収支予算書	
IV. 添付資料	18
1. 平成 27 年度 活動組織図(案)	
2. 平成 26 年度 行動計画・進捗管理	
3. 平成 27 年度 行動計画・進捗管理	

## I. 支部長挨拶

本日は、平成 27 年度年次大会開催に当たり多くの会員各位にご出席を賜りお礼申し上げます。

千葉県支部は、日本技術士会の地域組織強化を図るために設置され 4 年目を迎えました。これまで役員各位並びに会員の皆様のご支援を頂き活動を進めてまいりました。

本日は、平成 26 年度の活動報告を行い、平成 27 年度に向けた活動計画についてご説明し、ご意見を賜りたく存じ上げます。また、平成 26 年度は、初年度設定した基本理念に基づく行動指針達成に向けての中期計画 3 年の最終年でもあります。この大会ではその辺りをまとめて新たな計画について意見交換する大会であります。

ここで、少し余談になるかと思いますが、日本の「物づくり」として誇れる話をしてみたいと思います。5 月末 NHK・BS 放送を見ていましたら「鉄道王国日本」について海外での取り組みを二点放送していました。一つは、ドバイにおける都市内鉄道で、「世界一美しい電車」を造る物づくりであります。大変な注文に対し、見事にその美しい車両をデザインし完成させ、現在その車両がドバイの高層ビル群の谷間を走っているのです。

もう一つは、イギリスに輸出した日本の鉄道技術であり、正確なダイヤを売り物にして、沿線の地域づくりまでも影響をおよぼしているようです。この話は日本の技術が世界に評価を受け、「日本の底力」を見せつけ、輸出拡大に繋げているのです。イギリスの鉄道については、1 昨年当支部での CPD において日立の植田千秋さんの講演において技術輸出の経緯を聞いていますので直ぐにわかりました。今までのイギリスでは鉄道ダイヤは遅れるのが当たりまえのようで、車両作成からメンテナンスまで日本ブランドが絶大な評価を得て、技術屋として嬉しい話です。

かつて 18 世紀には、産業革命において蒸気機関車を輸入したのが、現在では日本技術が、世界の都市や地域の発展に大きく貢献しているのです。イギリスでは、他の路線にも導入が拡大し注文が増えているようです。このように技術と経済の好循環を生み出すのが、鉱物資源等の皆無に等しい日本国の生き続けていく道であると確信した次第であります。

一層、科学技術立国を柱として長年培ってきた「物づくり」のノウハウをより高品質な、機能アップを図った製品を、世界中に売り込んでいく貿易立国を目指していくことが何より唯一日本の選択肢であると考えます。

日本技術士会では、科学技術に影響を及ぼす技術士の使命を担って、社会貢献に大きく寄与するものであり、千葉県支部の基本理念「**技術士の技術力とチーム力で、産・学・官との交流・連携を強めて、地域の経済社会の発展並びに科学技術の向上に貢献する**」を活動の柱として、引き続き取り組みを進めていくこととなります。

平成 26 年度は、10 回の支部役員会を開催し、毎回熱心な審議を行って、各委員会と活動推進チームでは、基本理念や行動指針に基づく行動計画について、着実な展開を進め、本日報告していただきますが、3 年の中期計画はそれなりに前進したと考えています。

活動に向けては、多くの会員に参加いただき活動を進めるように努力してまいりましたが、より多くを結集するまでには、まだ道半ばかと思えます。平成 27 年度の活動に向けて、千葉エリア地域の発展に貢献するべく継続した活動に邁進していきたく存じます。

どうか、会員の皆様には支部活動の前進に向けたご協力とご支援を賜りたくお願い申し上げますとともに、本日年次大会としてご意見賜りたく、宜しくお願い申し上げます。

本日もご出席の皆様の益々のご健勝を祈念しまして、年次大会のご挨拶に代えさせていただきます。

支部長 松井 隆

## II. 平成 26 年度活動報告

### 1. 支部年間活動報告

平成 26 年度における諸活動は、平成 26 年 7 月 19 日年次大会での活動計画に則り、各委員会ならびに支援チームにおいて具体化の進捗管理により、着実に進めることができた。役員並びに多くの会員のご支援ご協力を得たことに対して感謝します。

なお、平成 27 年 4 月末現在の支部会員は、正会員 800 名、準会員 212 名、合計 1012 名です。

活動報告の概括は、以下のとおりです。各項目の内容は、委員会ならびにチーム報告において詳細を示す。

- ① 支部役員会は 10 回開催し、各回熱心な討議を行った。また、役員会開催にあたって、事前の委員長・チームリーダー会議を開催し、役員会を有効に進めることができた。
- ② 企画委員会による CPD 研修会・見学会は、11 回実施し参加者が増加した。
- ③ 統括本部との連携を進めた。(支部長会議出席および諸活動の報告等)
- ④ 広報委員会による「Web 広報」第 1 号を発刊した。
- ⑤ 基本理念に基づく行動指針の具体化により、社会貢献へ向けた活動活発化を推進した。(企業及び関連団体、大学、県庁、千葉市等各自自治体等との交流連携)具体的には、中期計画の 3 年のまとめ参照。
- ⑥ 技術士の知名度向上に向けた施策を実施した。(中小企業支援と技術相談、科学技術・理科支援、防災活動支援)
- ⑦ 技術士の活用促進に関して、企業支援に向けた支援技術者登録制度には、会員からの登録が 114 名に上った。
- ⑧ 登録グループとして「技術者倫理講師育成研究会」の活動を実施した。

ここで、委員会並びに活動推進チームにおける中期計画 3 年のまとめを記します。

委員会並びに活動支援チーム	中期計画 3 年のまとめ
総務委員会	事務所を登戸から中央区中央に移転し、事務所利用を推進した。会員拡大及び賛助団体増は今後の課題である。
企画委員会	CPD を 5 回/年から 11 回/年開催し、参加者も 178 名から 431 名と大幅に増やした。これにより、支部財務に大きく寄与した。
広報委員会	Web サイトの充実、会報の発行および同報メールの活用が進んだ。
活動推進委員会	活動推進チームの活動推進を図った。
産学官連携チーム	産・学・官の連携を図った。
企業支援チーム	企業交流の活発化が進み、人材資源名簿作りと活用が進んだ。
技術相談チーム	千葉市産業振興財団では毎週木曜日および東葛テクノプラザでは毎週金曜日の技術相談を継続して実施してきた。
防災支援チーム	会員の参加を増やし、船橋市の市民活動イベントに参加し、CPD「防災講演会」開催を行った。防災協定は今後の取り組み課題である。
科学技術・理科支援チーム	「青少年のための科学の祭典 2014」、「千葉市科学フェスタ 2014」に参加・出展、「東京大学協調型学習システム」との協働、および SSH(Super Science High School)への指導助言等の活動拡大を図った。

### 2. 委員会・チーム報告

#### 2.1 総務委員会

##### (1) 総務委員会活動内容

委員会はメール会議も含め 4 回実施し、次の事項を行った。

- 1) 事務所移転を 24 年度実施し、25 年度は PC 等を整備した。今年は事務所の利用性アップを図った。また、事務所管理は、当番制をとり、当番に協力いただける幹事並びに会員が 30 名に増えた。

- 2) 第3回年次大会は、7月19日(土)「ホテルプラザ菜の花」において支部会員67名の出席を得て開催した。
- 3) 本部との連携は、報告・連絡・協議など適切に行っている。また、広報委員会では本部の協力を得てホームページの整備が進み、活用が進展した。
- 4) 財務・会計は、適切に出納管理を行い、支部役員会での中間報告を行い、透明性を確保している。また、本部への的確な決算報告を行っている。  
なお、会計収支については、後ほど報告があるが、ほぼ収支のバランスが良好に推移した。
- 5) 規則や細則類の整備に伴う支部規定等について見直し、整備を図った。
  - ① 千葉県支部の運営に関する詳細規則(見直し)
  - ② 千葉県支部旅費交通費支給規則(見直し)
  - ③ 千葉県支部事務所管理規則
  - ④ 千葉県支部CPD講師に関する規則
  - ⑤ 事務所当番対応要領(見直し)
  - ⑥ 支部会員名簿管理要領
- 6) 支部役員会の開催案内通知、役員会審議資料の提出、役員会議事録の整理を行った。
- 7) その他CPD等他の委員会並びに活動推進各チームとの連携を図った。
- 8) 会員、賛助団体の拡大は、今年度は進展が見られなかった。今後の活動の中で進めることが重要である。

(総務委員会 行動計画・進捗管理表参照)

## 2.2 企画委員会

### (1)CPD 研修会、講演会、見学会の実施

平成26年度におけるCPDは下表のとおり11回実施した。

主なCPDカテゴリーは、合格者祝賀会講演会、倫理研修会、年次大会特別講演会、見学会、科学技術講演会、合同勉強会、独立開業研修会、企業トップ講演会などであり、今後も継続する。

No	実施日時	主テーマ 開催場所	研修内容	参加者
1	26年5月 17日(土) 15時30分 ～18時	第13回CPD 講演会・合格者祝 賀会 きぼーる15 階多目的室	CPD講演会 「企業内技術士活動と実践」長見 茂氏(技術士 機械部 門)(株)ファソテック 相談役	66名 (内企業9 名)
2	26年6月 28日(土) 14時～ 16時40分	第14回CPD 倫理研修会 きぼーる15階第4 会議室	講演1「技術者倫理とは～技術者倫理を学習する目的～」 講師:安藤 正博氏 (技術士 機械・電気電子・総合技術 監理部門) (社)日本地下鉄協会リニアメトロ推進本部 首席調査役 講演2「大学における技術者倫理教育の実践」 講師:小波盛佳氏 (技術士 機械部門) 工学博士 小 波技術士事務所 所長 千葉大・鹿児島大非常勤講師	33名
3	26年7月 19日(土) 15時40分 ～ 16時50分	第15回CPD 平成26年度 年次大会 記念講演会 菜の花プラザ	講演テーマ: 「ロボットと共生する未来社会」 講師: 先川原正浩氏 千葉工業大学未来ロボット技術研究セ ンター 室長	67名 (内招待8 企業3)

4	26年8月 22日(金) 14時～ 16時	第16回 CPD 見学会 東葛テクノプラザ	企業を支援する新産業創造拠点としての研究開発施設を見学する。 「東葛テクノプラザ」、「東大柏ベンチャープラザ」を見学	29名 (内企業2名)
5	26年9月 13日(土) 14時～ 18時	第17回 CPD 研修会 きぼーる 15階多 目的室	「開業技術士の経験ノウハウ」 講演1 松井 隆氏(建設) (有)ケイエムアイエスオー 講演2 徳永雅彦氏(情報) ナレッジシェア 講演3 村上修一氏(金属) 村上技術士事務所 講演4 仲野武重氏(化学) 仲野技術士事務所	52名
6	26年10月 25日(土) 14時～ 16時	第18回 CPD 科学技術講演会 きぼーる 15階多 目的室	「小水力発電の現状と開発事例」 福田 真三氏(技術士 建設・経営工学・総合技術監理部門) 日本工営株式会社 電力事業本部 建設事業部	37名 (内非会員 1名)
7	26年11月 19日(水) 18時～ 20時	第19回 CPD 合同勉強会 県庁中庁舎 10階大会議室	県庁、船橋市、千葉工大各技術士会との合同勉強会 テーマ 「成田空港」3名の講師による講演 清水貴史氏(成田国際空港株式会社) 金子善一氏(千葉県空港地域振興課) 木下博道氏(千葉県道路計画課)	63名(県 庁33、支 部22、船 橋6、講師 2含む)
8	26年12月 13日(土) 14時～17 時	第20回 CPD 経営トップの講演 会 千葉商工会議所 第2ホール AB	千葉県内の中堅企業の経営者2名の講演会 講演1「高付加価値を生み出す加工技術の開発」 一切削加工・パイプ加工に替わる細物深絞り加工— 岩瀬 利明 氏 (船橋電子(株)代表取締役社長) 講演2「プロダクツアウト型?、マーケットイン型?」 中根 昭 氏 (三立機械工業(株)会長) 講師代行 桑島英明氏(技術士 金属部門)	33名(内 企業参加 者9名)
9	27年1月 24日(土) 14時30分 ～18時	第21回 CPD 新春講演会きぼ ーる 15階多目的 室	環境に関する新春講演会 「住環境を脅かす揮発性有機化合物(VOC)の発生メカニズ ムとその対策提案について」—産業廃棄物の機械的処理によ り発生したVOCの実測例を中心に— 津谷裕子氏(NPO 化学物質による大気汚染から健康を守る会 茨城事業所・理事)、終了後新年交流会	40名
10	27年2月 28日(土) 13時30分 ～18時	第22回 CPD 支援事例研修会 きぼーる 15階多 目的室	主テーマ「ものづくり補助金申請および開発支援」 ①A社事例:桑島英明氏(技術士・金属) ②B.C.D社事例:進藤秀明氏(技術士・金属・衛生工学、熊田 成人氏(技術士・経営工学) ③E.F.G社事例:志澤達司氏(技術士・経営工学)	39名
11	27年3月 28日(土) 14時～17 時	第23回 CPD 防災研修会 きぼーる 13階 会 議室3	講演1「防災、災害情報を10倍活用する方法」 秋田 義一氏(技術士 情報工学 部門) 講演2「土砂災害への備え」 上野 雄一氏(技術士 建設・総合 部門)	45名

今年度の CPD は実施回数が 11 回、参加者延べ人数は 431 人であった。2年前の H24 年度に比べ参加人員は大幅に増加した。今後は社会からの技術士に対する要望、及び会員の CPD に対するニーズ等に十分配慮し、CPD 内容の充実を図っていききたい。

## (2) 交流の拡大と組織強化

県支部の活動は、地域に密着した会員相互及び産学官などの交流拡大が望まれる。そのような観点では、県庁技術士会と継続して実施してきた合同の勉強会は、長きに亘って定着してきており高く評価できる。船橋市役所技術士会も参加するようになり更に千葉工大技術士会にも声をかけるなど交流拡大が実現した。

大学交流については、千葉エリア産学官連携オープンフォーラム等にできるだけ参加し、連携の可能性を探るよう努めた。講演会の講師の依頼、大学からの技術士講師の依頼などを通じて次第に交流から連携への兆しが見えてきた。今後、更に産学官との交流を深め、県内の各大学の産学連携技術を、技術士のコーディネートによって企業の技術支援に繋がるような活動に向けて、関連する委員会及び関係チーム等と協力し、これらの組織強化を進めていきたい。

(企画委員会 行動計画・進捗管理表参照)

## 2.3 広報委員会

### (1) 広報委員会活動内容

委員会はメールで相談し次の事項を行った。

#### 1) 千葉県支部 Web サイトの CMS(Content Management System)化。

本部 Web の CMS 化の一環として千葉県支部の Web サイトを CMS 化し、千葉県支部で支部 Web サイトの更新ができる体制を作った。

この結果、Web サイト更新を本部事務局に依頼することが不要となり、最短、原稿作成の翌日には Web サイトを更新し、会員への情報提供を迅速に行うことができるようになった。

#### 2) 千葉支部会報発行。

千葉県支部会員を対象とした千葉支部会報を 12 月に Web 会報の形態で発行した。

新合格者を中心に構成し、千葉県支部会員の相互交流の一助とした。

#### 3) 日本技術士会統括本部主催第二次試験合格者歓迎会およびいくつかの部会における千葉県支部 PR と勧誘。

千葉県支部の合格者歓迎会の案内を作り、統括本部、部会の合格者歓迎会において千葉県支部 PR と勧誘を合格者に実施した。

勧誘時には業務都合で歓迎会に遅参してもよいか等の質問もあり、この結果、5 月 16 日の合格者歓迎会には新規合格者 13 名が参加した。

#### 4) 同報メール発信の運用の手引き作成。

千葉支部同報メール発信の運用の手引きを作成し会員が同報メールを利用して情報発信できるようにした。

この結果、CPD 講演会等の広報に同報メールを活用し、参加人員の増加、活動の活発化に役立てた。

#### 5) [chiba@engineer.or.jp](mailto:chiba@engineer.or.jp) によるメール発信。

会員、非会員から [chiba@engineer.or.jp](mailto:chiba@engineer.or.jp) 宛てに送付されたメールに個人メールアドレスでなく [chiba@engineer.or.jp](mailto:chiba@engineer.or.jp) のアドレスで返信できるよう環境を整えた。

この結果、会員・非会員からの県支部への問い合わせ等に違和感なく応えることができた事案もあるが、より一層の活用を検討する。

(広報委員会 行動計画・進捗管理表参照)

## 2.4 活動推進委員会

活動推進委員会は、千葉県支部の基本理念に基づき、行動指針を具体化するため、産学官連携チーム、企業支援チーム、技術相談チーム、防災支援チーム、科学技術・理科支援チームの 5 つ

のチームにより、活動を実施している。

本年度は、各チームのリーダーが鋭意取り組んだ結果、「平成27年度活動組織図」に明らかのように、会員のご協力を得てチーム構成メンバー数が増加し、活動の実効性が充実したものとなってきた。また新たに「技術者教育支援チーム」が組織され活動を開始することとなった。

以下、活動内容についてチーム毎に報告する。

#### 2.4.1 産学官連携チーム

メーリングリストを活用して、企業との専門技術のマッチングを呼びかけるとともに、千葉エリア産学官連携オープンフォーラムなど、大学主催の「産学官連携フォーラム」や「大学オープンリサーチ」、また、(公財)千葉県産業振興センターの「ちば新事業創出ネットワーク」及び(一社)コラボ産学官千葉支部による各種セミナー等の交流の場を通じて、県内企業、大学、行政が抱える課題を探り、チームとして取り組む産学官プロジェクト発掘を目標に努めてきた。

具体的な連携テーマは見いだせなかったが、今後も活動推進他チームと協力し、技術士人材登録ネットワークを活用して連携のニーズとシーズの把握に努める。

平成26年度に参加した主なイベントは以下のとおり。

1. コラボ産学官千葉支部第7回通常総会(京成ホテルミラマール) H26.5.19
2. 千葉エリア産学官連携オープンフォーラム～未来を創る／つながれ！明日にかける橋～  
千葉大学けやき会館 <講演会・研究シーズ展示・技術相談・研究室見学・産学官交流会>  
H26.9.16
3. 千葉県産業振興センター ちば新事業創出ネットワーク 平成26年度第3回セミナー  
デザインが変えるモノづくり～製造現場とデザインのマッチング～ H27.1.29
4. 県庁・船橋市・県支部 3者合同勉強会・交流会(県庁多目的ホール) 講演 成田国際空港  
H26.11.19
5. 県庁・船橋市・県支部 3者合同勉強会・交流会(県庁多目的ホール)  
講演1 建設分野の今後の展望と課題など。 H27.2.6  
(産学官連携チーム 行動計画・進捗管理表参照)

#### 2.4.2 企業支援チーム

行動計画に沿って各委員会、産学官連携チームならびに技術相談チーム等と連携を図りながら取り組んできた。

##### 1 企業との交流活発化

- (1) 支部イベント(CPD研修会3回、見学会)の企業への案内。  
人脈のある企業へ参加案内を出し、多い時には企業8社、参加者9名であった。
- (2) 友好企業との交流を深め、支援ニーズを探索し支援につなぐ  
「H25,26年度ものづくり補助金」に関し、人脈を通して2年間で14社の企業から相談を受けた。その内、11社に対し個人契約を結び申請支援を行なった結果、9社に対し補助金(MAX.1,000万円)が採択された。相談および支援を通して、新規企業8社と交流を深めることができた。
- (3) 「きぼーる」での技術相談などを利用した企業との交流(H26.4～H27.3)  
一部の担当者が、数回にわたり友好企業に声をかけ「きぼーる」または支部事務所において対応し、交流をはかった。
- (4) 交流する新規企業増をはかるために外部セミナー、交流会などに参加
  - 1) 千葉県よろず支援拠点開設セミナーに参加した(H26.6/25、海浜幕張ホテルザ・マンハッタン、H26.9/16、幕張メッセ国際会議場)
  - 2) ものづくり補助金などに関するセミナーに参加した(H27.1/28、ベンチャープラザ船橋、



H27.2/12, 船橋商工会議所)

- 3) コラボ産学官千葉支部総会・交流会参加 (H26.5/19 於京成ホテル)、「出張相談会 in 成田」に相談団体として「パンフレット」に掲載されたが、当支部に相談要請はなかった。今後の参考のために相談会場を視察した (H27.2/18 成田国際文化会館、桑島、滝沢)

## 2 人材資源名簿づくりと活用

- (1) 人材登録申請 目標：120名 (H26.3/31 87名 → H27.3/31 114名)

主に支部イベント (CPD研修会、見学会) の参加者の内、開業技術士を対象に申請案内をおこなった。

- (2) 外部からの支援要請による人材推薦

- 1) 支部に要請あり：企業と折衝したが設備メーカーの支援が決定し断念した。  
2) 会員による紹介：専門家 (電気・電子) 2名を推薦し、1名が企業と折衝したがマッチングしなかった。

- (3) 委員会およびプロジェクトチーム委員の紹介・推薦

- 1) 総務委員会、企画委員会、産学連携チーム (各1名)  
2) 企業支援チーム (4名)  
3) 防災支援チーム (5名)  
4) 技術相談チーム ・千葉市きぼーる (サイクル入り2名)  
・東葛テクノプラザ (サイクル入り3名、待機1名)

(企業支援チーム 行動計画・進捗管理表参照)

### 2.4.3 技術相談チーム

技術相談は企業支援のための窓口のひとつであり、活発化を図るべく対応策の具体化と実施に向けて活動を進めてきた。

行動項目は、以下の3件を挙げた。

- (1) 技術相談の確実な継続

- 1) 外部での技術相談は2か所で、千葉市産業振興財団と柏市の東葛テクノプラザで行っている。相談実施日は、千葉市産業振興財団では毎週木曜日、東葛テクノプラザでは毎週金曜日を相談日とし当番が各1名出向いている。支部事務所においても幹事及び協力者によりウィークデーは毎日事務所当番を行っている。  
2) 技術相談の実績は、ここ数年並みで千葉市産業振興財団と東葛テクノプラザ合わせて、13回であった。

- (2) 技術相談の認知度向上

方策のひとつとして情報発信の具体化を進めてきた。今年度は、千葉市中心の企業へは、実際に発信を実施し、東葛地区の企業へは発信の準備を検討していく計画で進めてきた。

- 1) 千葉市企業へのメールによる情報発信を当番表の変わる3カ月毎に行った。  
・千葉市産業振興財団の「千葉市いいネット」の登録企業中心の発信先リスト作成  
・具体的発信内容は技術相談の案内と当番表貼り付け (日本技術士会 HP 千葉県支部 URL)  
2) メール発信先の拡大として東葛地区の企業への発信準備を進めた。  
・東葛地区相談メンバー中心に新たに発信先企業候補リストの作成を行った。

- (3) 技術相談の体制整備

受け入れ側としての体制も整えていくための対応策について協議してきた。

- ・相談員の情報共有化のためチーム連絡会を3回開催した。  
・今年度は、東葛テクノプラザの相談員まとめ役が鳥居氏から井出氏に交代し、新たなメンバーも加わり新しい体制で動き出した。

(技術相談チーム 行動計画・進捗管理表参照)

#### 2.4.4 防災支援チーム

年次総会直前にチームリーダーが交替、継続事業、引き継ぎ事業もなくのゼロからのスタートであった。

前年度の事業報告を精査し、次のような方針を建て年度計画を組み立てることとした。

<方針>

- ①防災支援チーム活動の活性化
  - ②チームの補強（チーム員の増強）
  - ③何か1件でも実績を作る
- それらの結果を以下に報告する。

##### 1) 防災支援チームの活性化

チームの活性化については、以下の2点を目標に設定。

###### ①チームの存在を周知する

支部長をはじめ幹事の方々に防災支援チームのバックアップをお願いし、次項のチーム力強化に特に力を貸していただいた。併せて、防災チームの存在のアピールに努める。その結果、多くの方々にメンバーになっていただくことができた。

###### ②チーム活動を定期的実施する

チーム会議を2か月に1回定例化し、それに沿って開催した。

##### 2) チーム力の強化

登録技術者の中から推薦をいただき（上述）、前年度まで7名のメンバーだったが、期中に12名までに増加させることができた。

##### 3) 実施したこと

###### ①船橋市民活動平成26年度市民活動推進イベント「ようこそ市民活動ふれあい広場へ」に参加。

幹事会でイベントをご紹介いただき、急遽参加を決定し申し込む。ポスター展示と簡易プレゼンを実施した。60名の来訪者と30名ほどの名刺・記帳をいただき技術士会のアピールに役だった。

###### ②CPD講演「防災支援に関する講演」を開催

企画委員会のご協力を得て3月28日（土）にCPD講演会を開催。参加者は48名、初の試みは成功だった。

（防災支援チーム 行動計画・進捗管理表参照）

#### 2.4.5 科学技術・理科支援チーム

科学技術・理科支援チームの活動は、メンバーの努力により年々拡大・充実してきている。行動項目とその実施結果を以下に示す。

##### (1) 産・学・官との交流・連携と技術士の活用促進

###### 1) 「青少年のための科学の祭典2014千葉大会」参加・出展

2014年6月14～15日の2日間開催された「青少年のための科学の祭典2014」に、千葉県支部所属技術士8名、日立技術士会所属1名が、それぞれのテーマでブース出展し、実験実演及び展示説明を行い来場者とのコミュニケーションを図った。来場者数約350名で盛況であった。

###### 2) 「千葉市科学フェスタ2014」参加・出展

2014年10月11～12日の2日間開催された「千葉市科学フェスタ2014 メインイベント」に参加し来場者とのコミュニケーションを図ると共に技術士の活動をアピールし知名度向上に努めた。来場者数約500名。

###### 3) 東京大学協調型学習システム(CoREF)と協同

東京大学協調型学習システム(CoREF)の一環として、担当助教及び中島正明技術士とともに「地盤液状化現象」の再現実験を行いビデオ収録し理科教育教材とした。

###### 4) SSH(Super Science High School)指導助言

文部科学省指定のSSH校（千葉市立千葉高等学校）の研究発表会（3回 11, 12, 1月）の助言者・講評者（コメンテーター）としてメンバー12名が参加した。第一回目は、100以上のテーマで発表があり充実した内容であった。2014年度の全国SSH指定校数は計205校にのぼり、ほぼ全都道府県に分布しており、地域の技術士の活躍の場の一つとなり得る。

#### 5) 千葉市科学都市戦略支援

千葉市が推進する「千葉市科学都市戦略」の専門委員に、千葉県支部推薦の1名が就任し、技術士の活動を千葉市の広報誌に投稿すると共にささやかながら社会貢献に寄与した。

### (2) 企業支援、科学技術・理科教育支援、コミュニティとの協働活発化

#### 1) 柏市教育委員会

前年度、柏市教育委員会から理科特別授業の依頼打診があったが、実施には至らなかった。  
（科学技術・理科支援チーム 行動計画・進捗管理表参照）

#### 2.4.6 技術者教育支援チーム

2014年度は、支部の承認を得た任意のグループ活動、倫理教育研究会グループとして以下の活動を行った。

##### (1) グループの設立およびチームへの移行

松井 隆支部長、桑島英明企業支援チームリーダーより、小波盛佳に対して日本大学生産工学部機械工学科の技術者倫理講師の推薦があったが、むしろ、それに対応できる人材を育てる会をと、設立を提案した。2014年2月1日（土）の説明準備会に発起人が集まり、任意グループの倫理教育研究会として、県支部内での月一回の学習活動を開始することになった。グループとして活動を続けているうち、松井氏、桑島氏よりチームとして組織化することの提案があった。そして、その活動範囲を広げ、技術者倫理に限定しない「技術者教育支援チーム」として県支部内に設立することになった。ただし、勉強会は「技術者倫理教育研究会」の名称を継続して使用し、対外的にも誇れる研究会（講師の実績として有効なものを想定）として運営していく。

##### (2) 支部での CPD 発表活動

6月28日、支部CPD講座において、本研究会発足へ向けての周知と勧誘を兼ねて、小波盛佳が、「大学における技術者倫理教育の実践」として講演を行った。

##### (3) 教育研究活動

毎月1回のペースで技術者倫理教育研究会の研究活動を行った。会の活動は次のとおりであった。

表 2014年度の技術者倫理教育研究会の活動実績

	開催日	講師&内容
2014年	7月26日	小波:6月28日支部CPD講座「大学における技術者倫理教育の実践」の内容の詳細解説
	8月16日	小波:「講師になるための資格と実績」解説
	9月20日	志澤:「明治大学リバティアカデミーより製品安全」 山本:「技術者倫理入門」
	11月1日	和田:日本技術士会講演「製品重大事故事例」説明
	12月12日	熊田:「環境倫理について」
2015年	1月10日	小波:「社会が望む人材」<技術者はいかに生きるべきか>
	2月7日	河北:「行政(公務員)の技術者倫理」
	3月14日	進藤:「日本大学生産工学部機械工学科講義例(経営管理)」

##### (3) 大学への講師派遣相談

松井支部長を通じて、その知人である日本大学生産工学部機械工学科の高橋進教授からの呼びかけがあり、講師派遣の話し合いを持ったが、現在の講師が当面継続するということで延期となった。具体化は平成28年度以降となる。

### 3. 収支決算書

千葉県支部 平成26年度 収支計算書  
(平成26年4月1日から平成27年3月31日まで)

2015年7月20日

単位:円

	科 目	予算額	決算額	差異	補足説明
		a	b	a-b	
1	I 事業活動収支の部				
2	1 事業活動収入の部				
3	(3) 事業収入				
4	① 広告料収入	0	0	0	
5	② 参加費収入	800,000	786,000	14,000	CPD参加費
6	③ 各種資料等頒布収入	0	0	0	
7	④ 業務斡旋管理収入	0	0	0	
8	(4) 雑収入				
9	① 受取利息収入	0	106	△ 106	受取利息
10	③ 雑収入	20,000	10,000	10,000	事務所分担金(1団体)
11	④ 協賛金収入	150,000	150,000	0	協賛金(5団体)
12	⑤ 寄付金収入	0	10,000	△ 10,000	
13	(5) 地域組織活動費収入	816,000	912,680	△ 96,680	本部より、会費の5%相当分
14	(6) 地域組織活動補助費収入				
15	① 講演会・見学会開催補助費収入	670,000	477,583	192,417	CPD開催費用
16	⑥ その他補助費収入	200,000	95,803	104,197	科学フェア展示費用など
17	事業活動収入計 (A)	2,656,000	2,442,172	213,828	
18	2 事業活動支出の部				
19	(1) 事業費				
20	③ 事業広報費				
21	会誌印刷費	50,000	0	50,000	機関誌発行費
22	会誌郵送費	0	0	0	(月刊技術士に同封)
23	インターネット運用費	0	0	0	
24	対外的情報発信活動費	200,000	70,015	129,985	科学フェア展示費用など
25	その他の広報活動費	0	0	0	
26	④ 普及啓発費				
27	関係団体会費	24,000	24,000	0	千葉商工会議所、東葛テクノ会
28	⑥ 研 鑽 費				
29	講演会・見学会開催費	670,000	495,313	174,687	CPD講演会・見学会費
30	⑫ 各種資料等作成費	0	0	0	
31	⑰ 業務推進費				
32	法定福利費	0	0	0	
33	賃 金	0	0	0	
34	会 議 費	40,000	27,960	12,040	会議費
35	旅費交通費	500,000	555,464	△ 55,464	交通費(役員会は25年7月から支給)
36	通信運搬費	120,000	109,069	10,931	通信費
37	消耗品費	200,000	67,292	132,708	事務用品費
38	印刷製本費	50,000	15,709	34,291	印刷製本費
39	図 書 費	0	0	0	
40	各種会合費	300,000	312,660	△ 12,660	
41	光熱水料費	55,000	29,464	25,536	電気代、水道代
42	事務所賃借料	700,000	718,004	△ 18,004	消費増税分
43	賃 借 料	0	0	0	
44	地域委員会活動費	0	0	0	
45	雑費その他	100,000	41,364	58,636	振込手数料
46	事業活動支出計 (B)	3,009,000	2,466,314	542,686	
47	事業活動収支差額 (A) - (B)	△ 353,000	△ 24,142	△ 328,858	
48					
49	前期繰越収支差額	520,000	307,942	212,058	
50	次期繰越収支差額	167,000	283,800	△ 116,800	

#### 4. 監査報告

平成 27 年 6 月 12 日

#### 第 3 回 (平成 26 年度) 監査報告

公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部  
支部長 松井 隆 殿

会計幹事

水野正勝 

私、会計幹事（監査）は、公益社団法人 日本技術士会 千葉県支部の監査を行い、その結果を下記の通り報告します。

#### 記

一般的に認められた基準に準拠して、平成 27 年 6 月 12 日県支部事務所において会計に関する下記の資料を監査しました。その結果、出納状況は公正かつ妥当であることを認めます。

1. 金銭出納表、入出金伝票
2. 金融機関の通帳
3. 収入並びに支払いに関する証憑書類
4. その他

以上

### Ⅲ. 平成 27 年度活動計画

#### 1. 支部活動方針

平成 26 年度に継続して基本理念の達成に向けた行動指針の具体化活動を展開し、技術士の知名度向上および会員拡大を図る。

- (1) 地域産業振興への支援
  - ・地域産業振興への支援として、産・学・官との協働・連携を進めていく。
  - ・技術士による企業向けに技術相談を継続して実施する。
  - ・東葛地域や外房地域等全県下への展開に努める。(新規)
- (2) 大学等教育機関連携
  - ・大学等教育機関連携は、JABEE 関連について学生に向けた技術士の広報活動を進める。
  - ・大学等研究機関と交流し、講師派遣や大学からの企業連携依頼等の人的交流に努める。
- (3) 県庁、自治体連携
  - ・県庁技術士会、船橋市役所技術士会等との合同勉強会を協働開催する。
- (4) CPD(継続的研鑽)
  - ・技術者倫理の啓発に努め、技術士の資質向上のため講演会や見学会などの研修会を開催する。
- (5) 会員の活動機会の拡充
  - ・支援チームや活動グループによる活動参加機会の拡大に努める。

#### 2. 委員会・チーム活動計画

##### 2.1 総務委員会

- (1) 事務局整備
  - ・事務所管理は、会員による当番制において事務所を維持する。
  - ・年次大会及びCPD等委員会活動の支援を行う。
  - ・本部との報告・連絡・協議を行う。
- (2) 財務・会計
  - ・収入の確保を確実にする。
  - ・予算の管理と適切な出納を行う。
- (3) 会員、協賛団体
  - ・会員及び協賛団体の拡大に努める。
- (4) 会規、会議、名簿整備
  - ・規則類の整備を進める。
  - ・支部役員会等会議の議事録を整備する。
  - ・会員拡大に向けた会員分析を広報委員会と連携し進める。

(総務委員会 行動計画・進捗管理表参照)

##### 2.2 企画委員会

###### (1) CPD 研修会

CPD 研修会の計画的な実施、内容充実に努め、技術士個々の継続的研鑽を引き続き支援していくため、以下の事項に注力したい。

- 1) CPD は講演会と会員技術士の事例、ノウハウ発表及び見学会等を柱とする。
- 2) 会員への同報メール、ホームページを大いに活用し、会員の CPD ニーズに対応し、参加者増に繋げていくと共に内容の充実に目指したい。
- 3) 重点的なカテゴリーを決めて実施し、充実した CPD としていく。
  - ① 定例的 CPD、年次大会特別講演、新合格者祝賀講演会。
  - ② 県庁技術士会等との合同研修会
  - ③ 企業と技術士のための公的支援策の活用研修会
  - ④ 技術者倫理の研修会

- ⑤会員技術士による企業支援事例等の発表
- ⑥科学技術の研究開発関連講演会
- ⑦開業技術士の経験ノウハウ等
- ⑧企業経営者、技術者による講演会
- ⑨環境関係講演会
- ⑩見学会など

4) CPD 内容の充実を図るために地域組織としての特質を考慮したカテゴリーの見直しをするとともにテーマについての意見交換、協議などを行う参加型 CPD も視野に計画していきたい。

(2) 交流・連携の拡大と仕組みづくり及び組織強化

外部団体との共催または協賛のCPDやイベントを増やしていくことを検討したいと考えている。

そのために交流の拡大と仕組みづくりを目指して、産学官の「交流から連携」へのキーワードのもとに大学・企業・自治体等との関係について、関連する委員会及びチーム等と協力して組織的な仕組みづくりの検討を進める。

大学との共催のCPDや企業や他の技術士会等と連携して行うCPD等検討すべきテーマと考えているが、なかなか実現していないのが現状である。

まずは、外部のイベントにも積極的に参加し、必要な情報収集及び課題を整理して、関連する委員会及びチームと協力連携して実現に向けての仕組みづくりを計画的に進めていきたい。

また、CPD開催時に県支部の在り方等、会員相互の意見交換を通じて親交を深めていきたい。

(企画委員会 行動計画・進捗管理表参照)

### 2.3 広報委員会

(1) 広報委員会の軸足は千葉県支部会員への活動報告とする。

(2) 千葉県支部の活動を産学官など外部へ広報する。

(3) 広報委員会活動内容(行動計画・進捗管理表の参照)

次の事項を行うことを目標とする。

1) 千葉県支部 Web サイトの充実

- ① 各委員会・チームへの掲載記事の募集により Web サイトの充実を図る。
- ② 必要に応じて本部の手引きに加え千葉県支部の Web 掲載ガイドの作成検討。  
[http://www.engineer.or.jp/members/c\\_topics/000/000368.html](http://www.engineer.or.jp/members/c_topics/000/000368.html)←本部ガイド

2) 会報の発行

- ① 2 回/年発行へのチャレンジをする。
- ② 紙ベースの会報の発行の検討
- ③ 千葉県支部のパンフレットの更新の検討

3) 同報メール受信会員の拡大

同報メールを受信できる支部会員を拡大し、千葉県支部からの情報発信の周知、会員相互の情報交流の拡大を目指す。

4) 代表メールの情報共有

代表メール宛の連絡で次の 2 点の扱いを決定する。

- 1) 返信担当者が不明なもの。
- 2) 返信担当者が代表メールの受信リストに登録されていないとき

5) 会員拡大作戦

組織的に千葉県支部会員を増やす方案の検討と実行。

- ① 千葉県支部の PR 推進
- ② 部会、大学・企業内技術士会などとの連携
- ③ CPD 等イベントと連携した活動参加誘引

6) 月刊「技術士」を含む外部メディアへの会員の活動発信推進。

(広報委員会 行動計画・進捗管理表参照)

## 2.4 活動推進委員会

活動推進委員会は、総務、企画、広報の各委員会と密接に連携をとりながら、引き続きチーム体制により活動を実施していく。新しい期を迎え、引き続き多くの会員のチーム参加を促しつつ、支部活動の一層の活発化を図り、地域に貢献するよう取り組んでいく。

以下、チーム毎に活動計画を報告する。

### 2.4.1 産学官連携チーム

産学官連携チームでは、活動推進他チームと連携し、技術士が地域の産業や県内大学及び行政と幅広く、交流・連携して取り組む課題の整理や問題解決に向けた活動を活発化していく。

具体的には、新たな3か年計画として人材登録ネットワークを積極的に活用し、次の産学官連携活動を行う。

- ① 会員へのアンケート調査により、産学官連携の具体的なテーマを募る。
- ② メーリングリストを活用して専門分野の企業とのマッチングを継続して行う。
- ③ 大学及び大学技術士会などのネットワークを活用した連携プロジェクト情報の収集
- ④ (公財)千葉県産業振興センターの「ちば新事業創出ネットワーク」や(一社)コラボ産学官千葉支部、自治体等と各種セミナーや講習会などを通じた積極的な意見交換などを行い、連携プロジェクトのニーズとシーズの発掘を目指す。

(産学官連携チーム 行動計画・進捗管理表参照)

### 2.4.2 企業支援チーム

平成27年度の行動計画に示した2つの重点テーマに取り組む。これらのテーマ取り組みに当たり各委員会、技術相談チームならびに産学官連携チームと連携をとりながら活動展開をしていく。

#### (1) 企業との交流活発化

- 1) 支部イベント(CPD研修会、見学会)時、テーマおよび内容を勘案して企業への参加案内回数を増やし、参加した企業経営者との交流を深め支援ニーズの探索、支援に繋がる様に努める。
- 2) 企業との組織的人脈づくり

今まで個々に行なってきた一部の活動を含め、組織活動に組み入れて展開していく。

・個人人脈の拡大展開、・支部イベント時、蓄積してきた企業名簿(約200社程度)による情報発信、・個人人脈のある技術相談担当者は、相談担当日に企業への呼びかけ、・外部セミナー・交流会に参加して新規企業との交流、・支援企業が講師のセミナーや展示会に出品する場合の参加、・コラボ産学官千葉支部主催イベントへの参加および技術士の対応分野の具体的なPR(技術相談チームと連携)等

#### (2) 人材資源名簿づくりと活用

- 1) 支部HPでの人材登録申請の募集を継続する。
  - 2) 支部イベント(CPD研修会、見学会)の参加開業技術士を主体に登録申請案内を行い、平成28年3月末目標140名を目指す。
  - 3) 人材名簿を活用する
    - ・技術相談をバックアップする人材のネットワーク化
    - ・人材の紹介、推薦
- (企業支援チーム 行動計画・進捗管理表参照)

### 2.4.3 技術相談チーム

今後も「技術相談を通して企業支援を行い地元へ貢献していく」ために、活発化の方策として外部への発信をすると共に、更に今後取り組む新たな方策についても探っていく。

行動項目は、以下の3件を挙げた。



(1) 技術相談の継続

外部での技術相談である、千葉市産業振興財団と柏市の東葛テクノプラザの2か所と、支部事務所の事務所当番を継続して行っていく。

事務所当番を含めた協力者の確保をしながら進める。

(2) 技術相談の認知度向上

千葉市及び東葛地区の企業への情報発信を具体的に進めていく。また、今後取り組む方策についても議論している。

1) 各企業へメールによる技術相談予定など情報発信を進めていく。

- ・千葉市企業へは、前年度から継続して進め、発信先リストの更新をしていく。
- ・東葛地区の企業へは、作成した発信先候補リストに基づき、CPD イベント開催案内、ものづくり補助金申請支援案内ならびに技術相談予定などの情報発信を開始している。

2) 今後取り組む新たな方策を議論していく。

- ・技術相談の活発化に向けた具体策の掘り出しを行う。

(3) 技術相談の体制整備

受け入れ側としての体制も整えていくための対応策について協議していく。

- ・チーム連絡会などによる情報共有化
- ・技術相談対応の強化のために必要な対応策  
(技術相談チーム 行動計画・進捗管理表参照)

#### 2.4.4 防災支援チーム

(1) 方針

1) 防災支援チームの存在の周知として、千葉県支部内でも“防災支援チーム”をまず、身内に知ってもらえる存在になる。

2) 「技術士(会)」の周知として、一般の市民に技術士の存在を知ってもらう。

以上の方針に従い、今年度は昨年の経緯と実績から次のような具体的活動を行っていく

(2) 活動計画

1) 災害協定の締結を目標に千葉市とは、数年来協議を続けてきた、今年度は目処をつける。その他の市についても協定締結を申請し、協定に向けて活動していく。

2) 防災講演会開催については、企画委員会と相談の上、「防災講演会」を実施する。最良の日は9月1日(関東大震災記念日・防災の日)であるが、各市町村と競合の恐れがあるので、今後検討する。松戸市にある千葉県西部防災センターで、一般市民をも参加する形の開催を目指す。さらに、支部内のCPD講演会も検討する。

3) 防災に関する市民活動については、「船橋市民活動サポートセンター」のイベントに今年度も参加を検討し定例化したい。また、他市の「市民活動サポートセンター」への登録も検討していく。

(防災支援チーム 行動計画・進捗管理表参照)

#### 2.4.5 科学技術・理科支援チーム

継続的に実施する公的科学・技術イベントに参加すると共に、地域における科学技術・理科教育支援の拡大・実施に努める。

(1) 継続的に実施する公的科学・技術イベント

「青少年のための科学の祭典2015」及び「千葉市科学フェスタ2015」に継続して参加・出展する。

(2) 地域における科学技術・理科教育支援の拡大・実施

- ・千葉市教育委員会より市立稲毛高等学校の、SGH(Super Global High School)指定に向けた取り組みの一環として技術士会への協力依頼があった。去る4月10日千葉市教育委員会を訪問

し、千葉市教育委員会 企画課 管理主事 遠藤 明男先生の説明を受けた上で、協力する方向で検討することを約束した。

- ・ 市立千葉高校において、「青少年のための科学の祭典」に出展する「メロディーの小箱」作成準備を、高校生8名とともに実施する予定である。
- ・ 市立千葉高校のSSH 研究発表に対する指導助言を本年も引き続き実施予定である。  
(科学技術・理科支援チーム 行動計画・進捗管理表参照)

#### 2.4.6 技術者教育支援チーム

現役または講師経験者がカリキュラムの組み方、授業の進め方等を開示し、会員が研究した内容を発表して、ディスカッションしながらブラッシュアップを図るようにしていく。また、技術者倫理の授業について大学等に積極的にこの技術者倫理採用を提案し、さらに経営工学などの他の科目で技術士が教育できる場を広げていく。

##### (1) 教育研究活動

原則として月1回の研究活動として技術者倫理教育研究会を継続する。テーマは、技術者倫理の他、実際の大学等における教育活動の内容とする。

表 2015年度の技術者倫理教育研究会

開催日	講師と内容
5月2日	小波：「倫理綱領」講義例（千葉大学）
6月13日	志澤：「ISO9001:2015 改定情報」
7月11日	小波：「製造責任と法」講義例
8月8日（予定）	小波：「技術者のための文章作成術」

##### (2) 参加者募集

研究会の場所の制約はあるが、2、3名の増加は可能であり、新たな参加を呼び掛ける。ただし、研究会への参加に関しては、原則として入会時65歳未満、日本技術士会所属で大学での講師を希望するものに限定する。ただし、研究会の席に余裕があるときは客員参加を可能とする。

##### (3) 支部でのCPD発表活動

勉強の成果が確認した後に、県支部CPDでの発表を行う。

##### (4) 大学講師等の派遣相談

支部長、企業支援チームを始め、他のチームの応援を得て、日本大学生産工学部機械工学科の技術者倫理講師ほか、その他の大学、高専等への働きかけを行っていく。

千葉大学機械工学科で、毎年12月（昨年は14日）に3年生のグループ製作成果（約20点）の発表展示会がある。そのコメンテータとしての参加者を求める。

### 3. 収支予算書

千葉県支部 平成27年度 収支予算書  
(平成27年4月1日から平成28年3月31日まで)

2015年7月20日

単位:千円

	科 目	H26年度予算	H27年度予算	差異	補足説明
		a	b	a-b	
1	I 事業活動収支の部				
2	1 事業活動収入の部				
3	(3) 事業収入	[ 800 ]	[ 900 ]	[ △ 100 ]	
4	①広告料収入	0	0	0	
5	②参加費収入	800	900	△ 100	CPD参加費
6	③各種資料等頒布収入	0	0	0	
7	④業務斡旋管理収入	0	0	0	業務斡旋管理費
8	(4) 雑収入	[ 170 ]	[ 160 ]	[ 10 ]	
9	①受取利息収入	0	0	0	受取利息(100円未満)
10	③雑収入	20	10	10	事務所分担金(1団体)ほか
11	④協賛金収入	150	150	0	協賛金(5団体)
12	⑤寄付金収入	0	0	0	
13	(5) 地域組織活動費収入	[ 816 ]	[ 907 ]	[ △ 91 ]	本部より、会費の5%相当分
14	(6) 地域組織活動補助費収入	[ 870 ]	[ 870 ]	[ 0 ]	
15	①講演会・見学会開催補助費収入	670	670	0	CPD開催費用<「29」
16	⑥その他補助費収入	200	200	0	科学展示費用など<「24」
17	事業活動収入計 (A)	[ 2,656 ]	[ 2,837 ]	[ △ 181 ]	
18	2 事業活動支出の部				
19	(1) 事業費	[ 3,009 ]	[ 2,964 ]	[ 45 ]	
20	③事業広報費	( 250 )	( 230 )	( 20 )	
21	会誌印刷費	50	30	20	機関誌発行費
22	会誌郵送費	0	0	0	(月刊技術士に同封)
23	インターネット運用費	0	0	0	
24	対外的情報発信活動費	200	200	0	科学展示費用など>「16」
25	その他の広報活動費	0	0	0	
26	④普及啓発費	( 24 )	( 24 )	( 0 )	
27	関係団体会費	24	24	0	千葉商工会議所、東葛テクノ会
28	⑥研 鑽 費	( 670 )	( 670 )	( 0 )	
29	講演会・見学会開催費	670	670	0	CPD講演会・見学会費>「15」
30	⑩各種資料等作成費	0	0	0	
31	⑩業務推進費	( 2,065 )	( 2,040 )	( 25 )	
32	法定福利費	0	0	0	
33	賃 金	0	0	0	
34	会 議 費	40	50	△ 10	会議費
35	旅費交通費	500	500	0	交通費(未請求分大きい)
36	通信運搬費	120	120	0	通信費
37	消耗品費	200	150	50	事務用品費
38	印刷製本費	50	20	30	印刷製本費
39	函 書 費	0	0	0	
40	各種会合費	300	400	△ 100	
41	光熱水料費	55	30	25	電気代、水道代
42	事務所賃借料	700	700	0	
43	賃 借 料	0	0	0	
44	地域委員会活動費	0	0	0	
45	雑費その他	100	70	30	振込手数料など
46	事業活動支出計 (B)	[ 3,009 ]	[ 2,964 ]	[ △ 30 ]	
47	事業活動収支差額 (A) - (B)	[ △ 353 ]	[ △ 127 ]	[ △ 151 ]	
48					
49	前期繰越収支差額	[ 520 ]	[ 308 ]	[ 45 ]	
50	次期繰越収支差額	[ 167 ]	[ 181 ]	[ △ 25 ]	

#### IV. 添付資料

##### 平成 27 年度活動組織図(案)

委員会・チームの構成員には、委員会委員として会員から広く募り、活動を推進していくことにしており、会員各位の奮っての参画をお願いする。

